

第9回特別展

北方民族の船

北の海をすすめ



丸木船／トリンギット 5m 98cm



丸木船／ヌートカ 5m 60cm



丸木船／ニブフ 4m 66cm



白樺樹皮船／アルゴンキン・インディアン 4m 85cm



カヤック／イヌイト 5m 25cm



1995. 2. 7(火) - 3. 14(火)

開館時間 9:30-16:30 休館日 月曜日 2月14日

特別展示観覧料

一般	高校生・大学生	小学生・中学生
250(200)円	80(50)円	50(30)円

●かっこ内は10人以上の団体の場合

協力 市立函館博物館 函館市北方民族資料館
北海道開拓記念館
門崎允昭氏 児玉マリ氏 吉田悟郎氏



北海道立北方民族博物館

Hokkaido Museum of Northern Peoples

〒093 北海道網走市字潮見313-1 (天都山)

☎ 0152-45-3888

北方民族の船

北の海をすすめ

北方諸民族の生活と歴史において船は大きな意味をもっていた。もしも船がなかったら一年の生業のリズムもまた民族の移動や文化の広がりも我々の知っているものとは大きく相違したものになっていたに違いない。

北方民族は北の自然の中でくらすために、生活のあらゆる面において工夫をし、高度な技術を発展させてきました。そして船もまた、その知恵と技術をこらした実に見事な生活道具です。北方民族の船の種類はおおまかにわけて、樹皮船、丸木船、板船、獣皮船の4つがあります。丸木船、板船、樹皮船は木が豊かな地域で、獣皮船は植物があまり豊かではない地域でつくられました。樹皮船と獣皮船は同じように「皮」をつかうものですが、つくりかたは全く違います。樹皮船のほうはさきに樹皮で船の形をつくって、あとから補強材をいれていくのにたいして、獣皮船ははじめに流木で船の形をつくり、そこに獣皮をはっていきます。この代表的なものがカヤックです。北アメリカの北西海岸では、シーダー（ヒノキ科の樹木）の大木を材料にした大型の丸木船がつけられました。この丸木船には色が塗られるなど、装飾がなされることもありまし。アイヌは丸木船に板を綴ったイタオマチブ（板綴り船）をつくり、交易を盛んに行っていました。

かい／イヌイト

北海道立北方民族博物館所蔵



1-13 14 15 1-13 市立函館博物館所蔵（うち2-7 児玉マリ氏所蔵）
14.15 北海道立北方民族博物館所蔵



船模型 1-3 ニブフ 4 北海道アイヌ 5 北西海岸インディアン
6 オジブワ 7-9 イヌイト
北海道立北方民族博物館所蔵

3 4 5 6
1 2 9 8 7